

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	大阪キリスト教短期大学
設置者名	学校法人 大阪キリスト教学院

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
	幼児教育学科	夜・通信	46			46	7	
		夜・通信						
		夜・通信						
		夜・通信						
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページ上、教育情報の公開のシラバス項目にて公開している。
https://www.occ.ac.jp/guidance/university-information-2/pdf/2022_kamokuichiran.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	大阪キリスト教短期大学
設置者名	学校法人 大阪キリスト教学院

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<https://www.occ.ac.jp/guidance/university-information-2/>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	一般社団法人 国際飢 餓対策機構 理事長	2023.5.25 ～ 2027.3.24	危機管理体制整備
非常勤	一般社団法人 研究基 盤協議会 理事	2023.5.25 ～ 2027.3.24	財務
非常勤	(株)ボラーボ 海外部門 執行役員	2023.5.25 ～ 2027.3.24	経営企画
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	大阪キリスト教短期大学
設置者名	学校法人 大阪キリスト教学院

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 授業計画(シラバス)には、授業の方法、授業の概要、授業のテーマ及び到達目標、授業回数分の授業計画、試験あるいはレポート提出等の成績評価の方法、評価基準、授業時間外の学習に関する指示等を記載している。 また、当該科目が実務家教員担当である場合は、授業担当者の実務家としての現場経験を活かして、将来保育の職に就く受講者に今日的な課題を実践的に取り上げ教授する旨が記載している。 シラバス作成にあたって、開講前年度1月上旬までに教務課から授業担当者に作成依頼を行う。授業担当者がwebシラバス入力を終えた後、教務課が記載内容のチェックを行う。その後、2月から3月にかけて、学長指名による第三者の教員が「シラバス作成要領」に沿って作成されているかチェックを行う。これらのチェックを通して修正等も発生し、完成したものが4月に公開される。 シラバスは本学webページで公開している。	
授業計画書の公表方法	https://portal.occ.ac.jp/public/web/Syllabus/WebSyllabusKensaku/UI/WSL_SyllabusKensaku.aspx
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	
(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) シラバスに各科目の成績評価の方法と評価基準を明記している。学修成果の評価を秀、優、良、可、不可と学則に規定しており、可以上で単位修得を認定している。 成績評価は、定期試験、レポート、テスト、課題発表等により行う。シラバスに到達目標とその達成度に対する評価を明記している。 また、客観的指標(ルーブリックの導入等)により、教員は客観的な方法・基準に基づいて評価することとしている。 2年間履修する「卒業研究」については、担当教員各々がシラバスを作成し、評価基準も示している。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。 (客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) 学生は、ポータルサイトにログインし、自らの単位習得状況と GPA といった成績情報を確認できる。また、学期ごとに保護者へ、GPA も記載された成績表を送付している。 GPA の算出方法は、全学生に配付している「要覧」に記載している。各科目の成績評価を GP に換算し、この GP に科目ごとの単位数を掛けた値の合計を、履修登録した単位数の合計で割った値を GPA とする。 $\text{GPA} = \frac{(\text{GP} \times \text{単位数}) \text{ の合計}}{\text{履修登録科目の単位数の合計}}$ 学生には2種類の GPA を提示している。学期毎の修得単位で算出した学期 GPA と、全ての修学期間の修得単位で算出した累積 GPA を示している。 また、GPA に関する分布グラフを毎年度、作成しており、本学 web ページで公開している。前年度の GPA 分布グラフを参照して、学生は自身の成績がどの位置にあるか客観的に知ることができる。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	「要覧」に記載、ホームページ上「教育情報の公開、GPA 制度に関する規程」で公開している。 https://www.occ.ac.jp/guidance/university-information-2/pdf/2023_GPA.pdf
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。 (卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 卒業要件を記載した「要覧」を学生に配布している。教育目的等を文章で列挙するとともに、具体的な必要単位数を明記している。教養基礎科目と専門教育科目それぞれの必要単位数、必要合計単位数を示している。 また、同じく「要覧」に記載している履修指針表では、科目ごとの単位数や卒業必修科目とその単位数などを示している。 これらは本学 web ページの「教育情報の公開」にて公開している。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	「要覧」に記載 公開 URL: 教育方針 https://www.occ.ac.jp/guidance/university-information-2/pdf/2022_policy.pdf https://www.occ.ac.jp/guidance/university-information-2/pdf/2023_policy.pdf 卒業要件 https://www.occ.ac.jp/guidance/university-information-2/pdf/2023_graduation_requirements.pdf 履修指針表 https://www.occ.ac.jp/guidance/university-information-2/pdf/2022_guidelines.pdf (2022 年度生) https://www.occ.ac.jp/guidance/university-information-2/pdf/2023_guidelines.pdf (2023 年度生)

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	大阪キリスト教短期大学
設置者名	学校法人 大阪キリスト教学院

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.occ.ac.jp/guidance/financial-information/
収支計算書又は損益計算書	https://www.occ.ac.jp/guidance/financial-information/
財産目録	https://www.occ.ac.jp/guidance/financial-information/
事業報告書	https://www.occ.ac.jp/guidance/financial-information/
監事による監査報告(書)	https://www.occ.ac.jp/guidance/financial-information/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: https://www.occ.ac.jp/guidance/university-information-2/houjin.php

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: https://www.occ.ac.jp/guidance/college/pdf/assessment-1.pdf

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 幼児教育学科
教育研究上の目的（公表方法：学生募集要項） https://www.occ.ac.jp/admission/pdf/recruitment.pdf
（概要） ＜幼児教育学科の教育目的・目標＞ キリスト教精神に則り、現代社会の多様な要請に応え、個性を尊重する保育を実現する専門性の高い幼児教育者の育成を目的とする。 私たちの教育は、一人ひとりの命を尊び人格として尊重することを大切に、真理を探究し続ける意思を育て、豊かな人間性の育成を目指しています。 そのため、学生が、教育・保育の専門的知識・技能を身に付け、学問や実践を通して確かな思考力・判断力・表現力を培い、自ら考え誠意を尽くし、他社と協働してよき社会人、保育者となるための教育を行います。
卒業の認定に関する方針（公表方法：ホームページで公開している） https://www.occ.ac.jp/guidance/university-information-2/
（概要） 本学の建学の精神・本学科の教育目的に基づくカリキュラムを履修し、以下の資質を養い、所定の単位を修得した場合は、卒業を認定し短期大学士の学位を授与します。 1. 自己を確立し、社会に貢献する意欲をもつ。 2. 職業的倫理観を基礎として、乳幼児や人に対して愛をもって関わるができる。 3. 乳幼児の成長を支援するために必要な幼児教育、保育、福祉の専門的知識と技能をもち実践できる。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：ホームページで公開している） https://www.occ.ac.jp/guidance/university-information-2/
（概要） 卒業要件、免許・資格取得のために、学びの体系性と系統性をもって科目編成を行っています。 本学では、開設科目を①教養・基礎の学び②専門の学び③実践の学びの3つのカテゴリーで分類し、2年間または長期履修3年間での学びの体系とそれぞれの科目の相互の関連を系統的に示しています。2年間または長期履修3年間の学びでは①教養・基礎の学びを土台の学びとして位置付けます。 それらの基礎の上に、教育・保育・教育テックに関する②専門の学びが体系的に配列されています。 ③実践の学びでは、①②の積み重ねの総まとめとしての科目や実習が配列されています。 教育課程は入学から卒業までの時系列の中でそれぞれの科目の系統だった配置がなされ、ディプロマポリシーに示す資質能力の獲得や免許・資格の取得を目指します。 ① 教養・基礎の学び 本学の建学の精神に示されるキリスト教的人間観に基づく、人格の土台としての学びや人間と社会、教育・保育に関する原理などの学び、基本知識を広げる科目群です。教養基礎科目では必修科目として「聖書と現代人」や「英語1」を配列し、また、健康を考え理論的実践的知識・技能を習得する「体育講義」などを配列しています。専門教育科目では必修科目として「教育原理」「保育原理」「教育課程論」「保育者論」などを配列しています。本学独自科目としてはこども学コースに「キリスト教保育」、教育テックコースに「こどもビジネス論」を配列しています。 ② 専門の学び 教育・保育、福祉、教育テックに関する専門的な学びの科目群です。子どもに関する

さまざまな支援の内容と方法に関する専門的な知識・技能を身に付けるために、講義及び実践演習や対話などを重視しながら学びます。教育・保育内容に関わる専門教育科目「保育内容総論1」「保育心理学」、「幼児と健康」「幼児と人間関係」「幼児と環境」「幼児と言葉」「幼児と表現1（音楽）」「幼児と表現2（造形）」などが配列されています。それぞれのコースではより深い専門の学びとして特色ある科目を用意しています。こども学コースでは、「音楽1」「音楽2」「音楽3」「図画工作1」「図画工作2」などをコース必修科目として配列しています。教育テックコースでは、「教育テック実学1」「教育テック実学2」「教育テック実学3」「教育テック実学4」を軸として、「DX社会学」「SDGs論」などをコース必修科目として配列しています。自由選択の認定絵本士の称号を得る科目として「こどもと絵本1」「こどもと絵本2」が配列されています。

③ 実践の学び

「教養・基礎の学び」および「専門の学び」で身に付けた価値観や知識、技能を活かして各自の学修課題を解決し、社会や保育現場で活用するための、総まとめとして「卒業研究」を位置づけています。免許取得に関わる「教育実習（幼稚園）」「保育・教職実践演習（幼稚園）」や「卒業研究」では知識・理解と共に現場体験、地域のボランティアやチームでの教育・保育の取り組みによって、社会や子どもを取り巻く現代的な諸問題を学び、他者と協働して問題解決等に取り組む能力や奉仕の精神を育成します。それぞれのコースではより深い実践として職業体験を得られる科目を用意しています。こども学コースでは、「観察実習」を配置し、教育テックコースでは、「インターンシップ指導」を配置しています。また、こども学コースおよび教育テックコース長期履修に関しては、「保育実習1（保育所）」「保育実習1（施設）」「保育実習指導1（保育所）」「保育実習指導1（施設）」などの実習科目が配置され、乳幼児との関わりや職場の構成員として、体験やコミュニケーション、省察を通して保育実践力や社会人基礎力を育成します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：学生募集要項）

<https://www.occ.ac.jp/admission/pdf/recruitment.pdf>

（概要）

- ・ 本学の幼児教育学科の目的及び教育目標を理解し、子どもについて学ぶ意欲のある人
- ・ 他者を尊重し、コミュニケーションを大切にしようとする人
- ・ 自らの健康管理に努め、豊かな感性を発揮し、実践から学ぼうとする人
- ・ 高等学校卒業程度の基礎学力を身に付けた人

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：<https://www.occ.ac.jp/guidance/university-information-2/>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	3人	－					3人
	－	8人	4人	3人	0人	0人	15人
	－	人	人	人	人	人	人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		36人					36人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法：https://www.occ.ac.jp/guidance/teachers/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							
2022年度実績							
①「研究方法論と論理」教員研究体系の構築に向けて、科学研究の手法と研究倫理について研修会を実施した。							
②「生き方、学び方、働き方」をフレームワークという「形式知」で明確化させることにより、「システム・デジタル化」させる手法説明の研修会を実施した。							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
幼児教育学科	170人	82人	48.2%	340人	167人	49.1%	人	人
	人	人	%	人	人	%	人	人
合計	170人	82人	48.2%	340人	167人	49.1%	人	人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
幼児教育学科	83人 (100%)	2人 (2.4%)	79人 (95.2%)	2人 (2.4%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	83人 (100%)	2人 (2.4%)	79人 (95.2%)	2人 (2.4%)
(主な進学先・就職先)（任意記載事項） 幼稚園、保育園、こども園等				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
幼児教育学科	95人 (100%)	83人 (87.4%)	0人 (0%)	6人 (6.3%)	6人 (6.3%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	95人 (100%)	83人 (87.4%)	0人 (0%)	6人 (6.3%)	6人 (6.3%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 授業計画（シラバス）には、授業の方法、授業の概要、授業のテーマ及び到達目標、授業回数分の授業計画、試験あるいはレポート提出等の成績評価の方法、評価基準、授業時間外の学習に関する指示等を記載している。 また、当該科目が実務家教員担当である場合は、授業担当者の実務家としての現場経験を活かして、将来保育の職に就く受講者に今日的な課題を実践的に取り上げ教授する旨を記載している。 シラバスは本学 web ページで公開している。公開までに、授業担当者が web シラバスに入力後、教務課によるチェック、学長指名による第三者の教員によるチェックが行われる。「シラバス作成要領」に沿うものか判断される。
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

シラバスに各科目の成績評価の方法（試験、レポート等）と、評価基準を明記している。学則に、学修成果の評価については、秀、優、良、可、不可と規定しており、可以上で単位修得を認定している。成績評価は、定期試験、レポート、テスト、課題発表等により行われる。シラバスに到達目標とその達成度に対する評価を明記している。

また、客観的指標（ルーブリックの導入等）により、教員は客観的な方法・基準に基づいて評価することとしている。

2年間履修する「卒業研究」については、担当教員各々がシラバスを作成し、評価基準も示している。

学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
	幼児教育学科	6 2 単位	○・無	単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
		単位	有・無	単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法： https://www.occ.ac.jp/guidance/data/		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法： https://www.occ.ac.jp/campus_life/campus-map-2/

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
	幼児教育学科 (2年制)	800,000 円	250,000 円	412,500 円	教育施設充実費 270,000 円 休学中在籍料 53,500 円
	幼児教育学科 (長期履修生)	540,000 円	250,000 円	296,000 円	教育施設充実費 200,000 円 休学中在籍料 37,000 円
		円	円	円	
		円	円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
(概要) 大阪キリスト教短期大学給付制奨学金 本学独自のものとして、(A) 本学の課程を修業年限内で卒業する見込みがあり、経済的困窮が認められる者に対して、申請された学期の授業料の半額を給付する。1年後期分より申請可、各学期に審査、各学期につき在籍数の10%以内。(B) 本学において卓越した成績をおさめ、他学生の模範となる優秀な学生に対して、申請された学期の授業料・教育施設充実費・実習費の半額を給付する。2年前期分より申請可、各学期に審査、各学期につき1名。 また、入学後、諸事情により学費を納付期間内に納付できない場合、「学費延納・分納制度」も設けています。 他団体の奨学金として、独立行政法人日本学生支援機構、あしなが育英会、財団法人交通遺児育英会、地方公共団体及び民間育成団体奨学生制度（都道府県等による独自の奨学金制度で、内容はそれぞれ異なります）などがあります。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
(概要) 1年後期より就職ガイダンスを時間割の中に位置づけて1年間実施。全学生と個別面談を実施しています。採用試験対策（エントリーシート・履歴書の書き方、面接対策、マナー講座、筆記試験対策講座）等、多様な進路（教育・保育系、企業、進学、編入学等）の選択に応じて支援しています。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
(概要) 学生生活支援室と保健室で学生の健康に関わる支援を行っています。身体のこと、自分のこと、家族や友だちのこと、漠然とした不安、その他、どのようなことでも受けつけて一緒に考えていきます。プライバシーは守られます。また、どのようなサポートがあればよいかを探り、必要であれば、相談者の了解のもと、教職員が連携してサポートしていきます。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：ホームページで公開している。 https://www.occ.ac.jp/guidance/university-information-2/

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F227310108419
学校名	大阪キリスト教短期大学
設置者名	学校法人 大阪キリスト教学院

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		36人	36人	72人
内 訳	第Ⅰ区分	24人	21人	
	第Ⅱ区分	－	11人	
	第Ⅲ区分	－	－	
家計急変による支援対象者（年間）				－
合計（年間）				73人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（1）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	
----	--

（2）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定			
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)			
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況			—
「警告」の区分に連続して該当			
計			—
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間		前半期		後半期

（3）退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	
3月以上の停学	
年間計	
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	
訓告	
年間計	
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)			
G P A等が下位4分の1			
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況			
計			
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。